WASON
HQ
1104
J74+

May, '95
No. 378

明治十九年初刊

女學雜誌

毎週土曜日發兌

第三百七十八號

要目

園てる女が自叙傳
西ヶ原蠶業試驗場を訪ふ
母たるの要德いかむ
孤女學院の文章
あゝ大日本の男子
嬰兒の精神及び其の發達
婚姻の目的は分勞にあり

明治二十七年五月五日發兌

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.
(JOGAKU ZASSHI.)

第三百七十八號目録

社説

母たるの要徳いかむ

（一）進新は人生の大道なり

（二）新人を産出すべし

（三）成育には必要すべき料あり

（四）母が勤倹の聖なる意義

養蠶の内職

文しらべ

異聞三則（鈴木弘恭）

餞櫻兒去

捨人於路

異貌將軍

論説

嬰兒の精神及び其發達（竹内楠三）

其二〇（三）初生兒

嬰兒固有の活動〇觸感〇温感〇味感〇嗅感〇有機感〇筋感〇視感〇表出

書架

閨てる女史自叙傳

叩扉

西ヶ原蠶業試驗場を觀る（井上次郎）

雑録

米粒を拾ひて病人の見舞とす（石翁）

孤女學院の文章

兒籃

邪すい深き後家（若松しづ子）

片々

婚姻の目的は分勞にあり

日本に於ける基督教の感化

本年の第二回女子夏季學校

あゝ大日本の男子

熊本尙絅女學校の裁縫料

學生堤防の植樹

時報

師範學校女子部の好評〇聚芳學舍〇普通士女學校〇東北女子實業傳習所〇教育に關する諸問〇八王子女學校〇二女史の名譽〇巾幗の貧を慈善の資に充つ〇河村伯爵母堂の淑德〇孝女、貞婦、忠婢の賞與〇女子殖民協會に加はる〇鹿兒島婦人の感情〇女子部の養蠶〇婦人西藏探險者

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

明治二十七年五月五日發兌

第三百七十八號

社說

母たるの要德いかむ

(一) 進新は人生の大道なり

凡そ人として世に生れ出でたらんほどの者は、亦た何事か一つの新らしき事を世に產み出さずんばある可らず。是れ、天地造化の攝理に從がふの所以にして、亦、其の大恩に報ゆるの正道たり。

日に新らしく、日々に新らしく、又日に新らしきは、造化の大勢なり。然るに、世に存して此の大勢に反き、生きて只管らに頑硬依然たるは、既に其が造られたるの大本旨に違ひたるなり。進歩せざるものは、死せるにひとし。死せるものは、無きに均し。たとひ世に存すと云ふと雖ども、吾黨は之を亡びたりと言はん。

斯るが故に、苟しくも生を此世に享けたらんものは、斷えず進歩、進取の氣慨なかる可らず。たとひ、時勢の必要によりて、或ひは保守の手段を施こし、亦或ひは復古の方法を執らんとすることありとも、要とする所ろは、進歩、進取の旨に歸着せずんばある可らず。

左れば、此の天職を崇むりて盛んに經綸を施こす所ろの人物を稱えて有爲の人となす。もし事業界にて言わんには、生產家なり。もし學問界にて言わば、大學者なり。もし政治社會などに關して言わば、主領なり、預言者なり、改革者なり。而して、此等有爲の人物には、其の力量才德の度合ひによりて、大小先後の相違こそあれ、苟くも世に生きて其の益とならんほどのものは、何れも皆な此の有爲成益の能力を存せずんばある可らず。

(二) 新人を產出すべし

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

婦人の身に於て、世に新らしきものを産出すべき事、數おほし。尤とも明白なるは、新らしき人子を世に生むの一事なりとす。これ抑そも如何なる奥妙高善の事か。生命を天地に兆ざすは、造化の大妙力に由るとは雖ども、之を宿して其形躰を造るものは、即はち母なり。母は、第二の造化なり。造化の肉となりたるものなり。人世に形を取りたる生ける造化なり。

世界の万事、詮ずる所ろ、人の働らきに歸結す。而して、人を産み、人を造るの大妙工は、十の八九、婦女子が手の中に成る。婦女子は、全世界の大事業の要樞を握るものと言ふべき哉。

然りと雖ども、世には子を産まざるの母なきにあらず。抑そも、産むと産まざるとは、腹を痛むるとの有無をもて論ずべからず。當に、子を造り、子を育くみ、子を成長せしむるとの有無をもて評すべし。たとひ、一子を擧げずと雖ども、愛護他に及ぼし、よく衆庶の子を撫育するとあらんには、則はち以て人の母たりと言ふとを得ん。

此故に、男子は、事業を成して、世に新らしき事を産出し、女子は、人をつくりて、世に新らしきものを産出す。男子の着眼、つねに、事業に傾むき、女子の着目、つねに人に注ぐ所以のものは、天稟の使命か。たとへば、國家と云ひ、万國と云ひ、輿論と云ひ、大勢と云ふが如き、之に純正の人たる性氣なきのものは、女性の注意執着をうけんと、男子に於けるよりも薄し。左れど、個人を想ふて、之を熱愛し、之に執着するとの女性の如くならんは、男子が到底企及する所にあらず。女子は、夫れ人を思ひ、人を造り、人を育くむべきの天使なるべし。

（三）　成育には必要すべき料あり

人の成育とは、小さきものを大きくするの謂なり。故に、之に或る物を加へて其量を增さんとを必要す。幼なきには、乳を與へ、少きには飯を與へ、壯んなるには、智識を與へ、以て其發育成達をうながす。

此故に、人の成育を望むものは、之に給與すべき必要の物を所持せんと肝要なり。もし乳なくんば、赤子は死せん。もし飯なくんば、少年は倒れん、もし智識なくんば、壯年は久し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

く子供たるべし。

むかしマルサスは、人の數殖ゆるのみにして、之を養ふべき物の足らざらんとすることを計算して、太たく世を驚らかせたり。ダルヰンは之に驚ろきたることの至つて大なるものなり。則はち其影響を講究するに數十年、遂に論決して曰く、優れるは勝ち、劣りたるは負け、適したるは生存し、然らざるは亡滅す、斯して人の數大ひに減ずべしと。

試みに、近邊近所の人事を見よ。葬式の數は、誕生の數よりも少なく、離縁の數は、婚姻の數よりも少なし。人の數の年々に增加するは夥たゞしきこと也。斯の如くして又年々に進み行かば、人の生存の艱きを加ふること更に彌よ甚だしからんとす。生存の艱きは、死することの多き也。折角に人を生みて、萬靈の長を造り、而して養なふものゝ足らざるによりて、之を土芥の伍とならしむるは、何等の恨事ぞ。

（四）　母が勤儉の聖なる意義

人を養なふの道は、自己が養なひを分くるにあり。母は、躰内の養分を乳にして、之を乳かひ、又は、自己が食ひ分を節約して、之を育くむなり。此の故に、母たらん人の第一要德は、自から勤儉して、人に分け與ふることを樂しむにある也。然るに、爲す所ろ此に至らず、たゞ人より養ひ分を受け取りて、而して之を人の子に給與すること、單に問屋配達所の仕事の如くんば、之れ保姆なり、介添なり、未だ以て母儀を盡せりと言ふ可らず。母たるか、保姆たるかの差別の要素は、自から勤儉して給與するや、もしくは、人の給與品を取次ぐやの何如にあるなり。

此故に、母人に勤儉を要するの主旨、自から一ッの聖なる意義の上に存す。たとひ稱して、母なりと言ふも、もし未だ母たるの德を果さず、其の愛兒の爲めに勤むること足らず、其の愛兒の爲に慾を節すること能はずば、何んぞ之を贊して眞との母なりとすべけんや。彼、子を產みたりとも、實は產まざるに等し。子を產まず、事を成さず、人間世に生れて遂に一個の新らしきものを造らず。たとへば、石の頑然として居り、泥の汚々として存ずるに異ならず。嗚呼、何んぞ其の卑劣なるや。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

養蠶の内職

東洋の姫氏國は、眞とに女子の國なり。日本に於ける幾多の殖産事業は、大率ね、女子に適す。故に、吾黨は、殖産上に於ける日本は、實に女子國なりと言へり。

漆器、陶器、茶、竹細工の類、凡そ我國の特有産物にして、女子が天禀の長所に據らんもの數多きが中に、現に尤とも望あり、將來ます〳〵望多からんとするは、養蠶に若くものあらじ。

海外にて競爭すべき國は、佛蘭西、伊太利、支那、スペイン、カウカスなどに過ぎず。而も、賃銀の低廉なる、製法の緻密なる所に於て、吾は彼等に勝ち得て餘りあり。たとひ全く之に勝つとあらずとするも、伍角の勢ひを保たんと、もとより易し。而ふして、生糸絹布の需要は、日に月に進歩し、其用途の擴張せんと、前途ほとんど想像の外なり。

前途尚は然り。之を現在の事實に徵するも、養蠶の如く安固にして且つ利益多き女工は、他に多からじと見ゆ。之を大仕掛に構へて、多分の收益を望むも亦た可なれど、今試みに婦女子が内職の一つとして之を考ふるに、頗ぶる適當にして且つ利得多きとを知る也。

先づ庭園に二反の桑樹ありとせよ。細君、下女と共に、種紙二枚の蠶を飼はんと、左程の難事にあらじ。前后一と月半が程は素より世話しくとも、長からぬ間なれば、之を忍ばんと易し。斯て、二反の桑により二枚の種紙より收入すべき繭は、凡そ二石にして、其の賣價五六十圓を得べし、暫時の内職として、一年五十圓以上の黄白を受く、如此き利益多き女工は他に稀れなり。

現時日本家庭の細君が困却する所ろの一事は、自由に使用するとを許さるべき小遣錢の無き事なり。万づの入用を良人の支給に仰ぎ、何事の出費も一々其勞を煩はすべきに付きては、たとひ善事救濟の爲めにするものと雖ども、快ろよく之を支出すると能はず、戰々兢々として斷えず恐懼す。此故に、婦人の盡力によりて初めて發達すべき諸々の善事業の起るとなし。我國に於て此等の慈善の少なき所以は、婦女子が特有すべき小遣錢の餘裕なきに關すると多し。

左れば、戸々の夫人、認諾を良人に得て、一年暫時の内職を

成すとの餘暇をつくり、先づ養蠶によつて此の志望を果さんには、もろ〳〵の細君、嘉志ありて而して達志の方便なき恨み容易にして除かれんとす。目下養蠶の時節に際して、切りに此事由を考がえ、先づ其飼育法を學んで、而して來ん年より斷然實地に着手するの準備を爲すべし。

文しらべ

異聞三則

鈴木弘恭

○鷲攫兒去　水鏡中巻皇極天皇の條

但馬國に人ありき。をさなき女子をもちたりき。その子庭にはひありきしほどに。俄に鷲いできたりて。子をとりて東をさして飛さりぬ。父母泣かなしめどもゆき方をしらず。其後八年といひしに。其子の父ことのゆかりありて。丹後國へゆきてやどれる家に。めのわらはあり。井にゆきて水をくむ。このやどれる男。井のもとにてあしをあらひてたてる程に。その村のめのわらはどもきたりあつまりて。水をくむとて。ありつるめのわらはの汲たりつる水を。うばひとりてければ。とられじとをしむ程に。此めのわらはべども。おのれはわしのくひのこしぞかし。いかでわれらをばいるかせにはいふべきぞとてうちしかば。めのわらはなきて此やどりたりつる家にかへりぬ。男家主にこのめのわらはをわしのくひのこしと申あひたりつるは。いかなることぞとゝへば。家あるじ。そのとしのその月日。われ木にのぼりて侍りしに。鷲をさなき子をとりて。西のかたよりきたりて。すにをとしいれてわしの子にかはんとせし程に。此子なく事かぎりなし。鷲の子その聲におどろき恐れてくはざりき。我ちごのなくこゑをきゝて。すのもとによりてとりおろし侍りし子なり。さてかく申あひたるにこそといひしをきくに。我子の鷲にとられにし月日なり。此事をきくにあさましくおぼへてなきかなしびて。おやこといふことを知りにき。人の命のかぎりあることは。あさましく侍る事なり。

○拾人於路　水鏡中巻嵯峨天皇の條

弘安四年六月一日。官符をくだしたまひて。病人をみちのほとりに出しすつる事をとゞめさせ給ひき。たふときもいやしきもいのちをゝしむこゝろはかはる事なきを。世の人いけるをりはくるしめつかひて。病つきぬればすなはちおほぢにいだす。あつかひやしなふ人さらになければ。つひにうゑしぬ。ながくこのことをとゞむべしとおほせくだされしこそ。めでたきくどくとおぼえはべりしか。此ころもやすくありぬべきことなり。

○異貌將軍　水鏡下卷嵯峨天皇の條

弘安二年五月廿三日に田村丸うせにき。年五十四になんなりし。かたちありさまゆゝしかりし人なり。たけ五尺八寸むねのあつさ一尺二寸。目はたかのまなこのごとく。ひげはこがねのいとをすぢをかけたるが如し。身をおもくするときは二百一斤。かろくなすをりは六十四斤。心にまかせてをりにしたがひしなり。いかれるをりはまなこをめぐらせば。けだものみなたふれ。わらふ時はかたちなつかしく。をさなき子もおぢおそれずいだかれき。たゞ人とは見えはべらざりしなり。

論説

嬰兒の精神及び其發達（其二）

竹内楠三

（三）初生兒

胎兒が羊膜内に於ける安靜なる生活は大約四十週を以てその終を告げ、既に各機關は一通り其形態を整へ、外界の關係に加はりて生存すべき準備を全ふし、身長平均一尺六寸、重量平均七百五十匁（濱田玄達氏による）、全身豐滿して各骨密着し、筋肉堅實して皮膚淡紅色の成熟せる嬰兒となりて出生す而して兒臍と胎盤とを結び附けたる臍帶は脈搏の漸く絶ゆるを待て直に切斷せられ、其殘部は大約六七日を經て兒臍より脫落す、出生より此脫落までの時期を稱して初生兒と名づく本節の目的とするところは此時期に於ける嬰兒の狀態を畧述するにあり。

・・・・・・

嬰兒固有の活動――嬰兒は胎内生活中に出生后感應力となりて發現すべき原料を蓄藏するものなることは既に畧說したる所なり。然るに尙ほ之れを精細に言ふときは、感應力の現はるべき線路をも幾分か此時期中に形造るものなり。抑も感應力の發動には一定の形狀を有するものと然らざるものとあり。而して此一定の形狀、即ち感應力が如何に發現すべきやは既定の線路存するによりて定まるものとす。既定の線路とは何ぞや。神經纖維間の結合是れなり。今神經生理の上より少しく是れが說明を試みんに、感神經の末端が外物に刺戟さるゝや一秒時間に大約百四十フィート（ルードルフオルド氏の觀察による）の速力の割を以て其刺戟は中樞の方向に傳はり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

若し此力の外方に發出すべき一定の線路あらざるときは腦中に達して快或は不快の感情となり、動神經に漠然たる衝動を與へて身躰の諸部に多少影響するものなり。然れども若し一の感神經と一の動神經とが或神經細胞の聚合、即ち節によりて既に結び附けられたる時は、感神經の末端より傳はりし刺戟が此節に達するや直ちに之れに結接せる動神經を衝動して一秒時間に大約百十一フィート(ヘルムホルツ氏及びバックスト氏の實驗による)の速力の割を以て其末端と相接着する一部の筋肉を收縮せしめ、或は瞼を閉ぢ或は手を動かす等の如き運動を起すものなり。之れ所謂既定の線路存するによりて感應力は漠然不定の衝動となりて現はれず一定の形狀を以て活動するなり。然り而して斯の如き活動に種々あり、之れと共に神經の結合にも亦た種々なき能はず。或は一部の筋内中に結合するものあり、或は脊髓又たは延髓に於て結合するものあり、或は腦髓中に結合するものあるなり。而して刺戟の量僅少なるときは一の神經節より反射して一部の筋肉を收縮するのみにて止まん、されど若し刺戟の量過多なるときは之れのみに止らず近傍の神經節に傳播して其動神經を刺戟することあり、或は一層高等なる中樞に傳達し遂に腦の活動を起して識的感應、即ち感情となりて他の感情を喚起することあるなり。例へば今腸の一部に一塊の食物ありて其部の粘膜に分布せる感神經の末端を刺戟するとせんに、此刺戟は神經纎維を傳はりて隣接せる交感神經の節に達す、通常の狀態に於ては此刺戟直に反射運動となりて接近せる部分の筋肉を收縮せしむべし。然るに何か刺衝性の物質食片中に混入せるときは一層鋭き刺戟となりて、一の反射的運動を起すに止らず交感神經節を通過して脊髓神經節に達し、之れより發出せる動神經を衝動して腹部或は其の他の筋肉の痙攣を生ずべし。若し又た此刺戟脊髓を通過して腦に傳達し識的感應となりて現はるゝことあらんか之れ一種の不快感にして通常有機感覺と稱するものなり。斯の如き識的感應の生ずるや直ちに手を動かし腹部を押す如き簡單なる活動となることあり、或は過去の經驗によりて既に結び附けられたる他の感情を喚起し所謂思慮をめぐらして、此不快感を避くる複雜なる行爲となることあるなり。感應發現の線路中、何れの點までは生后經驗の積集を待たずして生れながら神經組織內に存するものなるやは現今の知識を以て未だ精密に定むる能はず。されど其顯著なるものを擧ぐれば、無識的發動中反射運動及び本能と稱するものゝ如きは、既に普通遺傳となりて一般の人類又たは他の高等動物にも存するものと云はざるべからず。此等の活動は胚が胎肉に於て分化發育すると同時に一定の線路を神經組織中に生じたるによりて起るものなり。斯の如き遺傳的活動中生后直ちに現はるゝものあり或は身躰の發達に伴ひて多少の時日を經過したる後に現はるゝのもあり。玆に初生兒が有するものの二三を擧げんに、プライエル氏が一嬰兒の將さに生出せんとして僅かにその頭部のみを出し啼きつゝあるに際し、鉛筆又たは手指を以て其口に入れしが嬰兒は之れを吸ひ始め、又た兩眼を開きて少モ愉快らしき顏貌を現はせるを見たりしが如き、又た氏が初生兒の目前に燭火を近づけしに嬰兒は忽ち兩眼を閉ぢ、又た睡眠せるときに之を施したるにその眼瞼を一層固く閉ぢたりしが如き、又た余は生后二日を經たる一嬰兒の鼻上に手指を以て觸れしが忽ち眼瞼を固く閉づるを見たりしが如き皆な是れなり。初生兒に固有なる活動は上述の如き簡單なる反射運動又は本能的作用に過ぎざるなり。然るに古來先天論者と稱して人類に經驗より來らざる一種類の觀念

ありて先天的に存するものゝ如く說く學者あり。彼等の說に從へば、時間、空間自己及び因果等の觀念の如き、或は道義の觀念の如き類は凡て人類が生れながらに有するところなれば、未だ發現せずとは云へ旣に嬰兒の腦中に於て存せざるべからず。然りと雖ども實驗的心理學者の說によれば、凡て觀念は單一なる感覺が一定の形狀に結合したるものに外ならず而して其原素たる感覺は凡て外物の刺戟より來るものなれば經驗より生ぜざる所謂先天的觀念一としてあることとなし。されば未だ經驗を積まざる嬰兒の腦中に一の觀念を存することなく、全く無識無心にして吾人が知覺する世界は殆ど絕無たるが如し。斯る空虛なる腦中に複雜なる心情の組織を造りて一個の人物となすは外界より來る刺戟の量及び形狀と身體を發育せしむる營養物とにあるなり。

嬰兒が突然外界に出づるや恰かも刺戟の海に投ぜられたるものゝ如く、神經の末端は絕えず外物の刺衝を受けざるを得ず然るに初生兒の神經系は尙ほ未熟柔軟なるものなれば刺戟に反應する力未だ充分ならずと雖ども、此等の刺戟は簡單なる反射運動となるのみにて腦に傳達せずとは思ふべからず、必ず腦の活動を起して精神組織の基礎となるものなり。されど是等の感應と結合し或は之れを分解する他の觀念未だ腦中に存せざれば識の差別甚だ不明にして、色、音響、光などの差別さへ未だ畫然たらざるべく、諸種の刺戟は唯だ漠然たる快或は不快の感覺となるのみならん。之れ雜多なる現象を開發すべき原素相混じて存する如き狀態にして、是等の感覺漸次分化して千差万別の心情を發現するものなり。されば嬰兒が接觸、熱、光線などの如き諸種の刺戟に始めて感應するは何れの時期なるかを知り、之れに適當なる材料を與ふるには嬰兒敎育の初步たるものと云はざるべからず。茲に二三の學者が觀察したる結果を擧げて少しく初生兒の感應を述ぶべし。

觸感——觸感とは皮膚に外物の接觸するによりて起る感應にして初生兒に於て甚だ銳敏なるのみならず又た早く經驗するものゝ如し。嬰兒が始めて烈しき接觸を受け苦痛を感ずるは產生期にあり。胎兒の產道を通過するや其下向部は劇しく周圍より壓迫せられ、爲めに皮膚に皺襞を生じ漸々腫起し以て通稱產瘤と名くる所の腫物となるに至ることあり。斯の如き强き壓迫は甚だしき苦痛を嬰兒に與ふるものたる明なり。

プライエル氏曰く「余は嬰兒が半ば生出して叫啼しつゝあるものを二回見たり。その顏貌の表出は極めて不快なることをあらはすものなりし、蓋し皮膚及び頭蓋の壓迫は胎內の安靜なる睡眠より嬰兒を醒すものなるべし」と。又た全く生出するや最初の沐浴によりて種々の接觸を感じ、又た身體を包む所の衣服の接觸は異樣なる感覺を與ふるものならん、之れ衣服の壓迫を脫せんとする運動によりて知らるべし。身體の諸部中觸感の銳敏なる所と然らざる所とあり、舌、鼻、唇頂及び鼻粘膜、手掌、蹠などは最も强く感ずる所なり。例へば初生兒が醒め且つ飢えたるときに羽或は指頭を以て少しく其唇に觸るゝときは忽ち吸引作用を起すものなり。又た初生兒の掌に指頭を以て觸るゝときは之れを握らんとし、蹠に觸るゝときは趾の擴伸を起すものなり。又た舌及び鼻頂の觸感につきては旣に反射運動の例として記したる所によりて明なるべし斯の如く初生兒の觸感は甚だ銳敏にして大人と毫も異なる所なきものゝ如し。

溫感——溫感は溫度の差異によりて生ずる感應なり。嬰兒の胎內にあるや周圍の溫度は母體の溫度よりも少しく高きものなり。然るに突然生出すると共に寒冷なる空氣に包まれ又た之れを呼吸するものなれば、血管の收縮起り而して一種の

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

不快を感ぜざるを得ず。されども之れ所謂温度の感覺なるや將た一種の不快に過ぎざるや知るべからず。然るに浴湯は始めて温度の感を與ふるものたるべし。浴湯は最初に於ては攝氏寒暖計にて大約三十五六度を以て適度となし、時日を經るに從ひ次第に其温度を減し攝氏の三十三四度に至らしむるを良しとするものなれど、從來我邦の有樣にては斯の如く精密に温度を定むることなく或は高度に過ぐることあり或は不足なることあり、之れ兒躰に害なき能はずと雖ども一方より見るときは温感を發達せしむるに力あるものなるべし。

味感――クッスマウルは砂糖、食鹽、幾那鹽及び酒石散を以て二十人以上の初生兒を試驗し、又たゲンッメル氏は二十五人の嬰兒に同樣の試驗を施したり、その嬰兒の多分は生后直ちに行ひたるものなりと云ふ。其結果によれば各表出に多少の變化ありと雖ども要するに砂糖は快感の表出を起し、他の三者は不快の表出として歪面をなさしめたり。又たプライエル氏は精密なる觀察に基きて初生兒は早くより甘、酸、苦等の味を區別し尚ほ其度を比較し得るものなることを云へり。然るに砂糖は必ず快味にして鹽、酸等の類は必ず不快なるものにあらず唯だ其分量の多少にあるのみ。ゲンッメル氏は幾那鹽或は酢の稀薄なる溶解液を以て試驗を施したるに、初生兒は砂糖を吸ふ如く之れを吸ひて少しも不快の感を表はさゞりし。其一例を擧ぐれば、氏は幾那鹽の百分の五の溶液を以て一嬰兒を其生出の初日及び六週間の後に於て試驗したりしが少しも厭惡の表出なくして之れを吸ひたり、然るに其量を少しく增したれば忽ち嬰兒は不快の顏色をなして啼き出したり。之れ分量增加するときは不快の感を與ふるものなればなり。

嗅感――クローチル氏の觀察によるに生出后十八時間なる一女子が少しの石腦油を塗りつけたる一方の乳頭を固く厭ひて他の乳頭を喜びて吸ひたりと云ふ。又たクッスマウル氏は阿魏の臭氣或は甚だ惡臭を有する油を用ひて睡眠せる初生兒に試驗を施したるが、其臭氣が鼻孔に入るや忽ち眼瞼を固く閉ぢ、顏を歪め、不安の狀を現はし、頭及び腕を動かし以て眠を醒ましたり、然るに此激因を取り去りたれば再び眠に就きたりと云ふ。又たゲンッメル氏及びプライエル氏等の觀察によるも初生兒の嗅感は早くより鋭敏なるものゝ如し。

有機感――有機感とは躰内に起る生理的變化によりて生ずる感覺を總稱するものなり。今茲に述ぶるは其一二に過ぎず(一)、飢餓の感覺は初生兒に於て早く現はるゝものゝ如し、之れ其表出によりて明なり。ペレッス氏曰く「嬰兒が生出后僅かに數時間にして飢餓の感覺は恰かも食物を求むる如き口の運動及び口に入りたる物を吸ふことによりて表出さるゝものなり」と。プライエル氏曰く嬰兒は生出したる日に於て多くは飢餓を感じて己れの指を吸ひ而して再び啼き出すものなり」と。又た余は生后二日を經たる嬰兒が頻りに乳を吸ふ如き口の運動をなし遂に啼き出すを見たり。(二)、疲勞の感覺は初生兒に於て甚だしきものなるべし。初生兒が覺醒せる間はその柔軟なる腦は絶えず外界より來る刺戟によりて勞せられ、又た叫啼、吸吞等も大に筋肉を疲勞せしむるものなり。是れ嬰兒は恰かも昏睡病者の如く能く眠るとによりて明なり。嬰兒の身躰は尚ほ未熟柔軟なるものにして長く刺戟に堪ゆる能力なく、外界の生存に適應するに至るは速かなるものにあらず、之れ通常出生后二三日間は漸々躰重を減じ間々十日に至るものあり、而して之れを回復するは大抵第八九日に至らざるべからざる事實によりても知らるべし。斯の如く外界の刺戟によりて消費さるゝ力は營養と睡眠によりと回復せられざるを

得ず。増して嬰兒は將來發育すべき餘力を要するものなれば過度の刺戟を與へて睡眠を妨け腦の發達を害せざるやう注意せざるべからず。

●筋感――筋感とは筋肉の收縮に伴ひて起る所の感覺を云ふ嬰兒が生出后直に體内或は體外の刺戟に反應して、眼を開閉し、口を動かし或は手足を動かすなど種々の活動をなすものなることは既に述べし所なり。凡て運動は筋肉の收縮によりて起るものにして、此筋肉の收縮は其部に分布せる感神經の末梢を刺戟して一種の感覺を生ぜざるべからず。されば筋感は運動の發達と相伴ひて發達するものゝ如し。

●視感――ブライエル氏の觀察によれば、氏が嬰兒は生出后八分を經へ薄暗き處に於て急に窓に向て抱かれしが、光線に對することは左程著しく見へざりし、然るに其后直ちに氏は嬰兒が兩眼を開き又た同時に其頭を動かしたるを見たりと云ふ。又た氏が曰く未だ第一日の終らざる候程以前に、嬰兒は窓に向て抱かれたりしが余手を以て光線を遮ぎりしに突然其顏貌を變じたり、されば窓より來る明るき光線は嬰兒に感じを與へたることは疑なく、又た余が手を以て光線を遮ぎりたるとき少しく不滿足なる顏貌をなしたる所より斷定すれば、其明暗なるや快樂なりしに相違なしと。又た第二日には氏は燭火を嬰兒の目前に近づけしが忽ち瞼を閉ぢたり。尚ほ氏の試驗によれば氏が嬰兒は通常光に於ては其瞳孔の縮小大人よりも甚だしく、其直徑は僅かに二ミリメートル位くして、又た光線のある方に向ふときは其上下兩瞼の間隔大人よりも甚だ狹かりしと云ふ。是によりて之れを見れば初生兒が光線に對する感は甚だ早く又た光線の強によりて起る瞳孔及び眼瞼の反射作用も既に現はるゝものゝ如し。然るに色を辨別するは未だ初生兒のなし得る所にあらず、余程時日を經ざるべからざるものゝ如し、故に之れを後節に讓るべし。

●聽感――聽感は他の諸感覺に比較すれば最も遲く發達するものゝ如し。蓋し初生兒に在りて鼓膜部即ち中耳に於て空氣の未だ不足なると外聽道の尚ほ閉塞せるとに因るものなるべし。吾人が音響を感ずるは中耳に於て空氣の充滿するを要す而して此空氣は呼吸作用の始まりたる后漸次ユースターキー管より輸入さるものなり。然るに何れの時期に於て始めて音響に感ずるやは諸學者の實驗未だ一定せずして判然たらざるが如し。ゲンツメル氏の實驗によれば生後一日若くは二日を經過したる嬰兒は確かに音響の刺戟に感應するものなり。されど聽感は嬰兒が成熟の度に左程關せずして最初は不同なり而して二三週を經過する中に一律均齊となるものとす。又たモルゲンハウエル氏は精密なる方法を以て五十人の嬰兒を試驗したり。其中十人は生后僅かに十二時間以内のものなりしが悉く音響に感應したりと云ふ。然れども感應の度は決して一樣ならざるが如し。又た試驗を施したる嬰兒中強壯なるものにして生后十時間を經たるに少しも感應せざりしものあり或は六日を過ぎたるものにて甚だ微なる反應をなしたるものあり、或は二十四時を經過したる四人の嬰兒は最初少しも感應せざりしが後試驗を反復することによりて遂に感ずるに至りしと云ふ。されば是等の試驗も未だ精密に聽感の度及び其發達の時期を定むるものとすべからず。

●表出――嬰兒が一の刺戟に感應するや否や、或は其感應は快なるや將た不快なるやを定むるは唯だ表出によるより外なし。之れ不充分たるを免れずと雖ども大人の言語或は行爲の如く複雜なるものにあらず簡單なる神經の線路によりて嬰兒の快樂或は不快樂の發出したるものなれば精密に注意するときは大抵嬰兒の心情を伺ふことを得べし。最も著しき表出は叫啼

なり。ブライエル氏は飢餓の啼聲と苦痛或は寒冷等より發する啼聲とに自ら差別あることを言へり。又た眼瞼を開閉し、或は手足を動かし、頭を動かす等の如きも著しき表出にして嬰見を研究し或はこれを保育するものゝ須く注意すべき所たるなり。

書架

園てる女史自叙傳

「日本の改革者園てる女自叙傳」と題する英文の一書、ニウヨークのハント書店にて出版せしものなり。此頃ろ頒けて一讀せり。同女史は、近月歸朝せられたる婦人なるが、其の米國に於ての募金運動殊の外目立ち、而も所々に宣傳せられたる演説の極めて壯大なりしかば、歸期の後ちの現在は抑そも何如に起居せらるるならん、其近況に加へて兼て其履歴をも知らせくれよなど申し越さるる外國人も尠なしとせず。抑そも、「テル、ソノ」と云へる名は二三年此の方外國の新聞紙にて毎度見掛たるともありと雖ど、其の洋行前は、本邦にて何如なる生涯を送られたる人なりや、餘り公けに聞き知りたるともあらざれば、然り斯々の名女なりしと答へんようもなく、左りとて其近状に就きては、未だ尙ほ精しく探知するの折を得ざりしに當つて、端なく先づ此の一書を手にし、反つて外國文によりての案内をうくると奇と云ふべし。然し乍ら、此は、照子女子が自作の叙傳なれば、其履歴を知らんが爲には、蓋し、此に優りたる手引あるまじとは思はる。

此書開卷第一に、照子女子が肖像をかゝぐ。一卷の書を左手にかゝえ、右手をたもとに突袖したる和裝の躰たらく、想ふに、海外數千方里を廻つて、白皙人種が面前に洒々として演説せられたる折の現態なるか。當年の風采、眼前に在り。題して自叙傳とあれば、素より著者が自作に相違あるまじきが、園照として、下に日本の改革者と自から注せられたること、少こしく異様に見ゆ。

目錄十一章、兩親の系統、自己の學問よりはじめて、シカゴに於ける遊説の事、並にユニチン、シグナル雜誌の評文などに終る。六十頁の叙事なか〳〵に尠からず。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

今ま、其卷末に見えたる世に訴ふるの開書なるものを見るに、英文の大意、左の如し、

妾は、貧乎たる一個の日本婦人なり。十三才の時、吾が父の教によりて、眞の神を認めたり。妾は未だ曾て偶像を禮拜せしとあらず。

二十六才の時、東京にて代言人となりたり。日本にては、婦人にして代言人となりたる事、古來より例しなきとなりつ。代言の業を營むにつれ、吾が國の婦人が現狀如何なる乎を細かに認識し、如何にしてか之を改良し之を幸福ならしめんとて、遂にアメリカに渡來したり。妾、もし吾國同胞姉妹の状態を考ふるときに、涙、雨の如く流る。彼等は實に此の幸福なるクリスチアンの生涯を知らざる也。凡そ五年以前、妾はクリストの御教を研究し、爾來クリスチアンとなれり。當アメリカに於て傳道事業に助力したり、こはあらゆる國の教會の基礎はクリストの宗教にあるとを確認せしが爲め也。妾は、サンフランシスコにて、日本人の爲めに一の禁酒上の會を設けたり。此會、今は、もと日本に傳道せし宣教師ハリス氏の夫人が監督の下に存す。又、妾は紐育州ブルックリンなるヲスボーン夫人が傳道學校にて日本語の教師たりき。

日本は一の帝國なり、アメリカは自由なる基督教國なり。日本の風俗は常にアメリカにしたがひ、すべて上流社會より來る習慣は、下流社會にて一々摸倣せらるるなり。左れば、上流社會に於てもし一人クリスチアンとならば、隨て忽ち下流社會の百人に達すべし。然るに、外國宣教師が高等の社會に出入するは出來がたければ、妾自身、かゝる社會の間だに傳道するの事業を執らざる可らず、妾は高等社會の婦人なり。

親愛なる兄弟及姉妹よ、願くは、吾國の婦人が間だに、エスの御爲めに成さんとする此一大事業に對し、妾を助け玉へ。もしも玆にして吾日本の故郷の都に一學校を創立せんには、多く多くの人々、學ばんが爲に集り來るべし、而して此等の人々かくして眞の救主を知るとを得べし。妾は所々の教會に於て演説し、かくして「主の金」を集めつゝあるなり。妾は來る十二月歸國せざるを得ず。神の

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

大ひなる愛を速やかに吾が國の婦人に知らせんとて、妾が心は燃ゆる也。

ヲー、吾が神に祈る、エスの御名が吾が本國の異教の婦人に聞かるることを得んが爲めに、速やかに此の金を與へ玉へ。

クリストに於ける諸君が姉妹　園照子

右の開書に對して掲載したるは、園照協會と云へる一組織の憲法規則なり。其の大畧は、

此協會の目的は、園照夫人が其の本國に於て属する高等社會の婦人女子が爲めに、無宗派の基督教主義の學校を設立する事、並びに十年間之を維持する事に於て、日本東京の園照夫人を助くるにあり。

一弗の寄附を爲すものは通常會員たり、五弗を寄するものは維持員たり、すべて此の會員は投票の權あり、男女は一樣に役員に撰擧せらるゝの權あり。

毎年二月年會を開き、當時役員を改撰し會計の報告を爲し、日本に於ける此事業の進歩もしくは必要事件は、園照夫人もしくは其代人によりて十分に披露せらるべし。

叩扉

西ヶ原蠶業試驗場を觀る

井上次郎

東京市を北の方に距ること二里許りにして、西ヶ原農事試驗場あり。内に、蠶業試驗場を置く。去る二十二三日の頃よりして、掘立はじまりし由に聞きて、過る土曜日（廿八日）の朝た、參觀したり。

明後日は、農商務大臣、露國公使を伴なひて參觀さるべしとて、場内の取片付、世話しく、見る〱本省より電話の掛合など頻りなりしが、掛りの人、最も鄭寧に各室に案内し、一々試驗のもようを話さる。本場の目的、養蠶上の試驗にあり、試驗の目的、養蠶上の智識を世に廣ろむるにありとて、名實相ひかなひたるの取扱かひなり。

試驗室凡そ五つ。各室に長あり、助手あり。それ〱樣々の試驗を爲す。當今、施行中の試ろみは、大率ね左の件々なりとす。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

一　蒸害試驗　主任　練木喜三

右は、種々の時と種々の場合とに於て殊更に非常の蒸熱を感ぜしめ被害の有無また其淺深を試むると同時に爲に發する病症の如何を撿するなり。

二　濕害試驗　同

試驗の主旨前に同じ、但だ本試驗は非常の濕氣を感ぜしむるの差ある耳。

三　催青試驗　同

一樣に貯藏せる蠶種を五日置きに取出し冷暖兩所に分置して發生の遲速を撿し幾干の溫度なれば幾日にして發生するやを算定し以て掃立の好期を察するの資に供する也。

四　蛆害試驗　同

各齡、小食盛食及び眠食の際ごとに蛆卵のある桑葉を給與して其寄生及び發病の如何を試み又一葉中孔葉と先葉とを分ち採りて給與し其被害如何を撿する也。

五　消毒試驗　同

種々の方法を以て微粒子病毒の消毒を試みる也、

六　繭質改良試驗　主任　鈴木伍作

赤熟、青熟、小石丸の三種に就き形狀正しく絲質善良なる繭を以て製したる框製蠶種を各別に飼育し血統を正ふすれば繭形絲質ともに一齊に歸すべきや否やを撿し以て繭質改良の資に供するなり。

七　掃立早晩試驗　同

同種の蟻兒を早く掃立て幼軟なる桑葉を用ひて飼育するものと晩く掃立て稍や老硬なる桑葉を用ひて飼育するものとに於て蟻兒の發育成繭の良否を撿察し而して蟻兒の衛生上の關係を明らかにし又桑葉收穫の多寡を調査し以て經濟結果を研究するにある也。

八　貯桑試驗　同

摘桑及び採桑を貯ふるに各種の貯桑器を用ひ其適否を撿し又種々の法を試みて其の簡便にして無害なる貯桑法を案出するにある也。

九　桑樹間作試驗　同

密植して間作せざる桑園と普通作物の間に疎植せるもの及び普通作物のみ作付せるものとの三者につき同一の地積にし、各收入の多寡を撿し其の何れか利得ある哉を定め以て耕作收益の增殖を圖るの資に供せんとす

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

但し該試験は去る二十四年着手し爾來毎年施行せしを以て本年にして三ヶ年間通じて調査するにあり。

十　蠶種密藏試驗　本多岩次郎

百蛾分の蠶卵を一リトル（五合五夕）の容積を有する玻璃壜中に密藏したるものと尋常の貯藏法を行なひたるものとを飼育し其の強弱を撿し以て貯藏法改良の資に供するにある也。

十一　蠶種浸水試驗　同

冬期蠶種を浸水すると短かきは六時間長きは廿八日間にして后ち普通の貯藏法を施こしたるものゝ終始普通の貯藏法を施こしたるものとを飼育し以て浸水被害の度を撿するにある也。

十二　家桑野桑試驗　同

培養を施こせる桑樹と否らざる桑樹とより得る所の葉を以て同種の蠶兒を飼育し結繭産卵上の關係を究めんとするにある也。

十三　餘付蠶種試驗　同

所云る餘付蠶種と普通のものとを同法を以て飼育し其生育の景況及び成繭の多寡を撿し以て蠶種改良の資に供するにある也。

十四　稚蠶飼育試驗

稚蠶飼育の成繭に及ぼす關係如何を撿するにあり故に同一種の蠶を甲乙丙丁の四區に別ち其關係如何を明らかにする也。

十五　同功繭試驗　同

昨年の繼續にて同功繭（蛹二つの繭）の生ずる元因を探究するにある也。

十六　蠶の種類試驗　同

各種の蠶を飼育し蠶種の強弱發育の遲速食桑の多寡飼育の難易絲量の多寡等につき比較試驗を爲し以て蠶種改良の資に供するにある也。

十七　蠶卵人工孵化試驗　同

蠶卵は一度寒氣に觸れざるときは孵化せずと云ふ然れども寒氣に觸れざる前より高温度を與へて其孵化せるや否やを試みるにある也。

十八　蠶桑虫害驅除及豫防試驗

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

蠶桑の害虫を飼育し其經過性質等を詳かにし以て驅除豫防の方法を探究せんとするにある也。

十九　殺蛹及貯繭試驗　主任　高橋信貞

種々の方法を施こし殺蛹及び貯繭の良法を探究するにある也。

試驗場置れてより十年、其の間、驗定して明白に確かめ得たる養蠶法いと多し。現に、試驗中の諸件も、大抵はすでに二三年前より繰返して試みらるゝものと云ふ。試驗の成績は、毎年一大冊の報告となりて、有隣堂書肆穴山より發賣す。養蠶傳習生六ヶ月間の實地修業は、斯くして確かめたる最良の飼養法による。目下傳習生六十餘名、場内に寄宿す。女生は、都合によりて入學を許されずと雖ども、熱心なる二三の女子は、雇の名に於て入つて學びつゝありとぞ。

夫れ本邦養蠶の術たる、古來尤とも精巧をつくす。千百年間の經驗すでに堂奥に達したりと言はんも不可なし。然るに、今に至りて更に益々巧細を極め、年々に發見する所ろの新法、殆んど妙地に入らんとす。もし斯の如くにして倘ほ止まずんば、本邦養蠶術の進歩それ何如んぞや。

雑録

米粒を拾ひて病人の見舞とす

石泉。

近日、孤女學院を見舞へる時、院長が机の上に、紙袋に米を納れたるもの一包あり。こは何ものぞと問ふに、院長の曰へらく、幼なき兒等、節儉の教を守り、銘々組を分ちて樣々の廢物利用方を行なふ。或るものは、髮毛を拾ふあり。又或るものは、破下駄の遺ちたるを拾ふあり。よりて、かくして得たるものは相應の價ひにて買取ると定めたるに、其得たる錢をばまた樣々に使用す。院内に兒等が自から設けたる文學會の入費などは、悉くかゝる廢物の利用よりして出づるなり。扨て、此の米は、其うちの一つの組の一人が、遺ちたる粒を拾ひ集めたるなり。院内六十人の大家内なれば、用ふる米も少なからず、米屋が運送のたび〳〵道に落すもの存外に多きが上に、兒等一々こん氣よく拾ひ出して何度如此く集め來る。こは其一組四人のうちの一人が、三月十五日より四月

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

二十五日に至る間だに集めたるものにて、一升八合あり。之を相當の値段にて買ひ遣はせば、此は院内に病兒ありしとき、見舞として贈るべき菓子の入用にあつるよし也。すべて此等の事みな兒等自からの發企發案にして、すこしも吾等が關涉する所ろにあらずと。われ此を聞きて、心うたるる如し。

孤女學院の文章

同じく

右の米袋の差出人は、長谷川さだ子と云へる十四才の孤女なり。彼女が、前夜の文學會にて讀み上げたるてふ文章なるものを見るに、

凡そ世の人多くはきれいなる衣服を着け甘き食物を食し立派なる家に住み安樂にくらすを以て最上の樂となすと雖そは世俗の考にて我等信者たる者の決して持べき考にあらず信者たる者は此世の樂のみを望まずいかなるかんなんにも望を以て主の爲によき働をなすべきなりされ共小妹はつたなきよはき者なればざんねんに思ふなれ共主によりすがり主の御助により世に有益なる働をなし世のくちはつるたからの爲に思ひわづらうわれなる人々を

みちびき共に天國の樂をのぞみ御榮をあらはすべき事なり。

とは固より一字の削正だに受けざる自作の文なりとす。因みを以て其が平生の作文帳なるものを借りて一覽するに、敎師が所々添削したるあとも多しといへど、今ま、其元文の所を二三標品として示さんに、左の如きものあり、

○女性の天職

宇宙の物一として天父の愛護に由らざるはなし一物の存し一事の興る豈に偶然ならんや其中人を天父に似せて創造り玉ふ所以の者其れ故なしとせんや妹等生れて此聖世にあり上天父に下同胞に負ふものあり此れ天父の我を存在せしめ玉ふ所以なり其れ智慧ある女は家を起し愚なるは亡ぼすとは箴言の敎訓にして實に女性の男性に於けるは滊車の蒸氣に於けるが如く凡ての時に於て潜勢力たるは吾女性の天職なり又女性は世に重大なる關係を有せり何となれば女子の性質たる潜勢力はすこぶる強くして其善惡に由て其家亡び其家起つ故に妹等熱心に神樣を信仰し能く勉強し知恵ある女となりて此國を起て憫れなる人

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

々の爲神樣の爲に働くべきは妹等女性の天職ならずや。

右作文は、一學時即はち四十五分間に教場即席に作る所のものなりとぞ。

又、箕浦ます子と云へる稍や小さきが、同じく文學會の席上にて讀み上げし文は、左の如しとぞ。

櫻は一重八重虎の尾彼岸山櫻等の種類あり三月頃花開き櫻色とて美麗なり小さき實を結ぶものあれども多くは實なし花の美なるに實果なきは惜しきとなり山野に生ずるもあり庭前又は鉢植となすもあり近來公園地に植ゆるもの多し大和の吉野山山城の嵐山東京の上野小金井向島等皆有名なり人も外見そのみ飾るときは櫻の如く實を結ぶことあたはざる也。

何れも秀逸なる文才ありと言ふべし。

人のおやの心はやみにあらねども
　子を思ふ道にまよひぬる哉。

我ならぬ草薬も物はおもひけり
　そでより外にそけるしらつゆ。

兒藍

邪すい深き後家

若松しづ子

（其二）

夫人は翌朝になつて、始めて珠數の紛失に心づき、ハテナと思案するにつけ、例の疑ひ深い癖がムラ〳〵と心に萌して來升て、此兒丈ほど、これまで、我兒の次に信じて居たおつるが不審になつて來升た。夫人は心の中に苦敷考へを廻らしてさてもあどけなく見へても、下賤の生れ、あれほどの物に眼をくれて、さも欲心を起したのか、憐もし、怒りもして、二日三日にわざとおつるの樣子を窺ひ、万一悔ひて詫びるかと心待にまつて居り升た。然るに疑心暗鬼とはよくいつたもので、おつるの言葉、立振舞がこれより一々夫人の胸にあたると計りでした。おつるが餘念なく遊ぶ處を見ては、わざと氣輕らしくして、自分を欺くのだと思ひ、坐敷へ湯茶の通ひに出た時不作法があれば、良心に苦しむ處があつて、自然オド〳〵落着ぬのだと見てとり、とり次を間違れば、くすねた品物に

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

心を奪われて物忘れをするのだと僻見升た。翌日も空しく暮れて、翌々日の夕方になり升た。夫人はおつるが最前庭先へ出たのにフト心づき、人知れず向ふを覗き升と、折しもおつるは庭の彼方からソロ〳〵歩いて來る處で、二重にして端を一握りに上へ擧げた前垂れの中をソット覗いて居た樣子でした。夫人は俄かに眉を顰めて、

　つる！つるや！一寸おいで。

「はい！」と素直な聲を先に立てゝおつるは勝手元から上らうと思ひ、小走りする其姿が袖垣の向ふに匿れようとする一瞬時に、夫人はまたも一際鋭く、

　つるや、つる！直ぐ椽からおあがり、用があるから、

おつるは前垂を間がわるさうに帶の間へ鋏み、夫人の前へ慇懃に手をつき升た。夫人は何となく樣子嚴めしく、

　つるや、此間掃除した瑪瑙の珠數が亡くなつたが、おまへヒヨツト在處を知つて居ないか？

おつるは例の一閑張の台の下など不審さうに覗き込み、

　どういたし升たらう、ちよつとも存じませんが、

夫人は意味有氣に其何氣ない顏をシケ〳〵睨まへて、

　おまへ、キツト知らない乎？

おつるは何やら頻りに恐氣立つて來て、顏を眞赤にし、眼はモウ濕んで居升た。暫らく俯向いて、其次の御意如何にと待つて居り升たが、夫人はあと何とも言ず、其お尋ねの外には御用がある樣にも見へぬので、おつるは一寸お辭儀して夫人の前をすべらうとし升た。夫人はまたも嚴しき聲して、おつるを呼とめ、

　おまへ、前だれの中に何を持つてるかお見せ。

おつるは少しく顏の色を直して、モヂ〳〵しながら、

　アノ、螢で御座い升よ、五助どんがお池の測でとつたつて、今私に與れ升たんで……

夫人の顏も我知らず弛み升た。おつるはモウ御機嫌は直つたと思ひ、三ツの螢の中一ツを螢草につけて一閑張の上へ殘し、殘りを前垂に取込んだまゝ、モウお膳を運ぶ時分だとて、勝手元へ立つて行升た。

其夜夫人は家の人の寐靜まつた頃、ソツト盆張を點しておつるの部屋へ行き升た。先づおつるのあどけない寐顏に眼を注ぎ、次に戸棚の戸を開けて、葛籠の中、小箱の中と、餘り物の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

置處を變へぬ様に用心して、それと思ふ角〳〵端〳〵を撿め、蠟燭の火がおつるの顔にあたらぬ様にとて我袖を翳しなどする魂膽は却つて其身に後ろ暗き廉が有かの様でした。何も知らぬおつるより此邪推深き婦人の胸の苦痛、どれほどかと氣の毒に思はれ升。夫人は戸棚をしめて、廣くもあらぬ部屋の中をあちこちと見廻し升と、壁に掛つたものはおつるの近頃買つて大切に袋を嵌めた毛繻子の傘と、朝晩見なれた可愛ら敷赤襷、それと一處の釘に下つて居るのは最前おつるが縫つたら敷古綛の袋で、細い蠟燭の光りが其方へ向いて居ない時にはピカ〳〵と青い光りを漏して居るのは、いふまでもなく、婦人が探偵の手掛と思ひひがんだ茶でした。其外如何に邪推深き夫人にも不審を抱かせる者は更にないので、夫人は盗みせぬ身も流石に何となく恥しく、忍足に我寐間へ歸り升た。翌日夫人は考へ直して、もしやと思はれる隈〳〵を悉く探し升た。おつるは殊更側へ引つけて、搜索の手傳をさせ升たが他には彼折與へ立入つた者のないといふ處から、おつるの上に被せられた疑はいつかな解けず、折ふし顔色目色を變へた夫人の詰問に、おつるもいよ〳〵恐げ立ち、此頃からなる丈夫人の側へ寄らぬ様にするも年の行かぬ心からは尤なことでした。疑念の雲は邪推深き夫人の胸にいよ〳〵凄ま敷蔓り升て、とう〳〵罪ないおつるはお暇を頂くことになり升た。併し仰によつて迎ひに來たお袋には、流石それとはいはず、只都合が有つてと言葉を濁らし升た。お袋は不興らしく、

若し、何か不調法でも致し升たか？

と問ふた時、夫人はわざと返答に困つた素振を見せて、

それは何もかも行屆くといふ譯には行ない。

とこれも不興氣にいつた言葉でした。おつるが下つたあとは容易に氣に入つた小間遣ひは見當らず、夫人は彌増す淋しさにホト〳〵困じ果て、チヤックさへ世話する人を失つて、近頃はボンヤリして來た様子でした。夫人は日に幾度となくおつるのことを思ひ出し、あの兒こそはいつまでも側へ置き、娘代りに面倒を見て万事を仕込み、相應な緣の有つた頃には、どこぞへ片づけてやらうと思つたに………併しあの位の眼のかけ様でさへあんな心を出す、モ少しどうにかして遣つたら、猶つけ上つたかも知れぬ、それにしても、あのあどけなさで、あれほど影ひなたがなかつた兒がどうして、もし〳〵自分

の勘違ひで有つたら、だが他に考へ樣があらうかと、夫人の胸の中にはいつも反對の妄像が戰つて居り升た。さて

夏も過て、秋の末頃でした、夫人の淋しさを訪ふ爲にとて、十才になる孫を連れて來たのは夫人の令息で、小息子は廣やかな庭の珍らしさに、チヤックを合手に栗の木へ登り、茱萸の木を搖りなどして終日遊び升た。午過ぐる頃、茶の間に夫人と話しする父の側へ慌立敷走つて來たのは例の孫どので、庭の井戶の水の中に赤い實がなつて居るから、是非父に見に來よといふとでした。夫人は笑ひながら、

秀雄は夢でも見て居たんだらう、それとも靑い木の實でも落したのか？

なあに、おばあさん、長く繫つてるよ、こんなに長くつて、僕の見たとのない實だから、だから駈けて來たんだ、二人とも見においでつてば、ヨウ。

と頻りに八釜敷いふので、軈て庭下駄穿いて父も祖母も、秀雄の意に任せて行つて見るとになり升た。父はステッキに生ひ茂げる忍草を掻き別け、夫人は金緣の眼鏡によく／＼井戶の中を覗き升と、透とふる水底に沈んで居たは正しく………

彼の瑪瑙の珠數でした。夫人は驚くまいとか、早速階を下して底を撿めると、珠數の外に一昨年紛失した銀製の文鎭其他ゴザ／＼した物も出て、發見の騷動最中チヤックが、人の領分へ立入る奴は誰だといはぬ計りの面もちで騷々敷鳴立てる樣子から、嘴に物をくはへてこゝへ落す處を見たといふ五助の證言もあり、旁、犯人は正しくチヤックといふ判決がこゝに始めてつき升た。

夫人は今さら深く越し方も恥らひ、おつるの寃を憐れみ、呼戾した上はかふしても遣らふと既に懇ろなる償方を思案して居り升た。然るに夫人の年來の惡習慣を一際徵しめる爲の攝理と見へて、迎に遣つたおつるのお袋は、夫人の一目も二目も置いた依賴にいとすげない挨拶して、

折角の思召ですけれど、あれは間もなくさる華族さまの處へ御厄介にさし上升て、先樣でも隨分と眼をかけて下さい升から……宅でも此頃は安心致し升て、ハイ、出世の糸口になるかも知ないとつて、あなた、悅んで居る處ですから………

とあとは意味もない笑ひに座を濁して居り升た。夫人の心の中には何ともいへぬ口惜しさと恥しさが滿升た。さうして確

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

と心にちかつて、決して邪念は抱くまいたとへば、刃物をもつて人をあやめるほどの恐ろ敷罪を犯すとがあると、深く自ら誡めたといふとです。

片々

○婚姻の目的は分勞にあり

サー、フヘルレロ君は、モニスト雜誌の近號に、生物學社會學の上より婦女子が勞働問題を論ずるよう。婚姻の一つの目的は、分勞にあり、之よりして、牡雄勞働して牝雌懸樂を供す、雌鳥が卵を孵へす間に雄鳥が餌を集むるの類、ライチン、ハイナも亦然り、人に於ても常に然るべき也。婦人が勞働社會に競爭するに至れば、男子は反つて損害を蒙むるとを多し。亦、統計表の示す所によれば、婦人が勞働社會に入る國柄には、女子と小兒との死數の割合甚だ多し云々。

○日本に於ける基督教の感化

立教大學の卒業生小林彥五郎氏は、五年前米國に渡航し、初はペーシニア大學に於て、今はケムブリツヂ神學校に於て留學中なるが、近頃ろ各神學校連合會に於て一人の演說者として撰擧せられ、日本に於ける基督教の感化と題して、王子孤女學院の事を演說し、非常の喝采を博して賞金百弗を得られたり。

○本年の第二回女子夏季學校

本年の女子夏季學校は、東京青山英和學校に於て開らかるゝとゝなり、京濱間の各女學校より委員一名宛を撰定して之に學校監理を委任するとゝし、開期は八月末よりして、十日間と定まりたり。

○あゝ汝大日本の男子

マクス、メロンとは東湖氏が匿名ならぬか。ジヤパン、エペンゼリスト第四號に、日本の乙女を叙したる中に言ふ、あゝ汝、大日本の男子、汝、口に愛國忠義を談じ之を以て道德の基本としながら而も女性に對するの不公平斯の如し。藝妓が夫人よりも汝の穢れたる趣好に適せん間だ、眞に汝を愛し信實に汝に仕ふる所の彼女が心を破つて家にのろはれたる手掛を置かん間だ、汝ち自得せる愛國者、眞に其國を愛するとを得べき乎。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

○熊本尙絅女學校の裁縫科

女學校の養蠶と裁縫とは、熊本の尙絅女學校を重しとす。今其の裁縫科敎授の細目をきくに、

尋常小學校卒業のものは普通科第一年級に高等小學科卒業のものは別科第一年級に編入するものとす學科は修身讀書數學家政敎育習字及圖畫の七科とす凡そ一學年を四十週と定め裁縫科にては之を五步に分ち第一步は四月初より五月末第二步は六月初より七月末第三步は九月初より十月末第四步は十一月始より十二月末第五步は一月初めより三月末に至るまでとし每週十時間づゝ敎授するものとす

普通科　第一年

第一步

器具の整理。針の持方及姿勢。素縫(縫一ッ折針目一分五厘)直線縫(縫二ッ折一行縫針目同上)數へ針(七五三、五五三、二四六)絲結三種(本結、機結、留結)留針二種(打留掇留)衣服の名稱。合縫六種(合縫、壓へ縫、曲け壓縫、二重縫、挾み縫、綴き合せ縫)絎け方三種(耳くけ、三ッ折くけ、本くけ)綠取。單袖(剝縫伏せ縫)同並袖縫。同行き付け。同褶伏。同前縫

第二步

素縫(前步の通り)直線縫(前步の通り)木綿單物裁方鄙引棒裁縫裁底巾物。單物實地裁縫

第三步

素縫(前步の通り)直線縫(前步の通り)單物實地裁縫

第四步

前步の通り

第五步

單物(早縫、組縫)前步の復習

普通科　第二年

第一步

素縫(前學年の通り)直線縫(三ッ折一行縫)單羽織(裁方鄙引並巾、唐巾)同袖縫。同行き付け。同前縫。同實地裁縫及復習

二

素縫(前步の通り)直線縫(前步の通り)單物裁縫復習

第三步

素縫(前步の通り)直線縫(前步の通り)木綿袷表裏裁方鄙引。袷袖縫。同行き付け。同褄揚け。同前縫。木綿袷實地裁縫

第四步

素縫(前步の通り)直線縫(前步の通り)袷裁縫復習

第五步

前步の通り

普通科　第三年

第一步

素縫(前學年の通り)直線縫(四ッ折一行縫)木綿々入表裏裁方鄙引。同袖縫。同前縫。同褄揚。同實地裁縫

第二步

素縫(前步の通り)直線縫(前步の通り)單物裁縫復習(前縫、早縫、組縫)洗濯張方。補綴

第三步

素縫(前步の通り)直線縫(前步の通り)單物及綿入裁縫復習。木綿袷羽織裁方鄙引。同袖縫。同行き付け。同前縫。同實地裁縫

第四步

素縫(前步の通り)直線縫(前步の通り)帶絎け(男物、女物)木綿袷。同綿入同袷羽織。裁縫復習(並縫、早縫、組縫)前步の復習

第五步

前步の通り

普通科　第四年

第一步

素縫(前學年の通り)直線縫(縫二ッ折三行縫)木綿々入羽織(袖縫行き付け、前縫)實

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

地質縫。襦衣縫。小兒衣服裁方罫引（一つ身、三つ身、四つ身、逆襟）同雛形にて裁縫

第二歩

素縫（前歩の通り）直線縫（前歩の通り）洗濯及張り方（板張、籏張）三布、五布蒲團、雛形罫引。同裁方罫引。同裁切。同雛形にて裁縫。補綴

第三歩

前歩の通り

第四歩

素縫（前歩の通り）直線縫（前歩の通り）背入夜着雛形罫引。裁方罫引。同裁方單雛形にて裁縫。足袋裁縫。前歩の復習

第五歩

素縫（前歩の通り）直線縫（前歩の通り）飾り刺及飾り縫。被服裁縫。前歩の復習

別　科　第一年

第一歩

綃素縫（二ッ折二行）直線縫（針目一分）袴縫合雛形罫引（十番仕立及並仕立）襲積取雛形罫引（十番仕立及並仕立）同裁方罫引（十番仕立及並仕立）同股立罫引（紙雛形、布雛形）同實地裁縫。兒童袴縫合罫引、（着初中小供）同襲積取雛形罫引同上。同雛形裁切同裁方罫引同上。同實地裁縫

第二歩

素縫（前歩の通り）直線縫（前歩の通り）前歩の復習

第三歩

綃袖袷（被掛け躾一分より同四分まで袖行き付け前縫）同實地裁縫。同襠引裁縫方

第四歩

素縫（前歩の通り）直線縫（前歩の通り）八丈幅紬中幅袷雛形罫引男物女物。廣幅物羽織裁方罫引。實地裁縫

第五歩

素縫（前歩の通り）直線縫（前歩の通り）袺物。市着形取（丸形角形長形）前歩の復習

別　科　第二年

第一歩

綃素縫。直線縫。綃紬綿入縫方。綃紬綿入羽織

第二歩

素縫（前歩の通り）直線縫（前歩の通り）前歩の復習

第三歩

素縫（前歩の通り）直線縫（前歩の通り）男女合羽雛形罫引。同裁切。裁縫。頭巾帽子雛形罫引。同實地裁縫

第四歩

素縫（前歩の通り）片面羽織裁方罫引。三ッ身片面物裁方罫引。唐棧裏付袴裁方罫引。同裁切。同裁縫。頭巾。冬頭巾。帽子。涎掛並紐縫取縫。比翼仕立。袖縫。前縫。同罫引。同裁縫

第五歩

素縫（前歩の通り）直線縫（前歩の通り）前歩の復習

○學生堤防の植樹

洪水后、新堤防に柳樹を植えし美談は、一介の小學生徒なり。而して、帝國議會の堂々たる君子は、反つて日本の山林を荒らし、僅かに治川の末節に走りて而も喧閙紛々たり。あゝ左の一事をきけ、

今を去る廿三年前乃ち明治四年夏秋の交我岡崎園に洪水あり人畜家屋田畑等大に損害し惨状見るに忍びざりし當時法實郡宮下村問府川も亦為めに堤防破潰し立川村の間まで數十町の田畑流失したりき是に於て直ちに復舊工事を起し鉅額の金を費して堤防を修築したり村老は痛く該出水に懲り堤防保護のことに意を潜めたりしが本郡宮下小學校生徒中にて俊秀且つ着實なるもの數名は父兄の苦心を見種々工夫の上一案を考出し休暇毎に近村の河原より柳の小なるものを堀取り堤防に植込み砂を掛け小石を載せ枯れざる樣に注意せしが霖雨の為め出水すれは忽ち流し或は放牛等に喰はれ盡せしも屈せず撓まず之を保護せしかば父兄自らも培植の労を取るに至れり斯くすること數年忽ち森々たる柳樹數町の間に生茂し根株堤防を卷占めて堅固となれり偶々二十六年十月本縣下非常の洪水に罹り各郡村の堤防破潰し家屋田畑流失せしに獨り宮下村の堤防は全体破損せず能く洪水を凌ぎ得しは之れを柳樹繁殖の庇蔭と謂ふも過言にあらざるべし而して當初植付けたる生徒は今や中年已上に達しあるにぞ共に既往を追懷して後來の紀念とせし為め近頃記念碑の計畫をなしつゝあり云々

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

時報

◎學校、教育

●師範學校女子部の好評　と題して「松江日報」に曰く年々歳々縣會議員よりは彼れや是れやと非難を受くれど縣下教育社會に於ては全く之に反して頗る好評を博しつゝあるものと見へ現に過般十一名の卒業生を出たしたるに各地の小學校より採用を請求し來るもの三十有餘名に餘りたれば師範學校に於ても一々之に應ずる能はざりしを以て止むを得ず申込の前後に從て其請求を諾否したる由今此の景況にては唯に女子部の廢すべからざるのみか本年々末の縣會に於ては女子部の擴張論を提出せんとて内々取調に從事せる縣會議員もありといへりと

●翠芳學舍　藤田東湖先生の姪野田英雄女史が順良貞實なる淑女を薫育し猶將來家務整理の實學に必須なる學科を教授するの目的を以て自ら舍長となり麴町區有樂町一丁目五番地に一學舍を設け正科として教授すべきものは倫理、國語、漢文、歷史、地理、理科、作文、家政、算術、和歌、習字、裁縫、編物、作法、唱歌、別科として教授すべきものは佛語、獨、刺繡、茶式、挿花又遠隔居住者の爲めに寄宿舍の設ありと云ふ

●普連土女學校　芝三田聖坂なる普連土女學校に於ては去月三十日午后三時より同校講堂に於て第二回卒業證書授與式を施行せられ、席定りて卒業生の英文、邦人朗讀、唱歌等あり校長海部忠職氏懇切なる勸告をなし來賓新戶邊稻造氏の卒業生への告辭等ありたり。來賓中にはドクトル、ハルツホルン父子、ドクトルホイトニー夫妻、新戶邊氏夫妻、津田仙、桑田衡平、高根義人等の諸氏ありて仲々の盛會にてありしと卒業生の姓名は左の如し

（全科卒業）　鈴木イク子、高根モト子

●東北女子實業傳習所　仙臺市大佛前なる同校にては此頃試驗結了したる由卒業生は、裁縫科石田トヨ、石山サクエ、鈴木ヨシノ三子にして同科二年級に昇級せしもの十四名、刺繡科二年級に昇級せし者十名、學科試驗を執行せしに是れ亦た成蹟良好なりしと云ふ

●教育に關する諮問　去る二十二日千葉縣望陀周准天羽の郡長には郡下各町村の小學校長教員を郡役所に召集し樣々の諮問したるものゝ一に曰く女子の教育は將來家庭教育に至大の關係を有するものなるに依り不就學女子の父兄を勸誘して就學せしめんことを怠らざると同時に女子の爲めに其教科を實用に近切ならしめんが爲め尋常小學校の教科目に裁縫を加ふるを要することは客年七月文部省訓令第八號及同年九月本縣訓令第百三號を以て訓令せられたり然るに昨廿六年に於て本郡の學齡兒童百人中脩學者は男七十九人强にして女は四十五人强に過ぎず如斯脩學上に差等あるは種々事情の存する所あるべしと雖も自今漸次訓令の旨趣を貫徹せしめんことを力めんとするに當り裁縫科教員に充つる所の一時雇員は容易に採用し得らるへきや否各員の意見を問ふと

●八王子女學校の開校式　同校は去る二十四日開校式を行ひ女子師範學校教授中川健二郎氏以下二百名の來賓ありなかく盛會なりしと

◎美談

●二女子の名譽　本邦より米國世界博覽會へ出品したる美術品中繪畫にては婦人館陳列小類女子野口ちか子の筆に係る鹽原秋景の圖非常の好評を得て優等の第一に算へられ居るよし又跡見玉枝女子は誠に皇女の御殿を御新築あらせられたる際お居間の御ふすまに揮毫する樣其筋の內命を受け且從來は如何なる畫家にても名を署することをば禁ぜられたりしを今回は之を許されしより女子は其榮身にあまれりとて齋後丹精を凝らして薗池群雁の圖及び菊花滿盛の圖を描出して其筋に納められたり記者曾て其以前女史を訪問せし際此の圖を拜觀せしに其出來實に見事なるがうへ金色燦然めもまばゆくて只其立派なるに驚きたり。嗚呼此の二女史一は波濤万里の海外に其技の名譽を揚げ一は仰ぐも高き雲上に其能の巧妙を現す且女史にしてかゝる內命を受けたるは實に玉枝氏を以て嚆矢とす二氏の榮譽豈又大ならずや（大日本婦人教育會雜誌に據る）

●巾幗の毀を慈善の資に充つ　芝區西久保城山町一番地に住む海軍々醫河村豐洲氏の夫人は日頃貞淑の德高く起居ともに禮儀正しく家庭の範の大和撫子一男四女の互み睦み合ふ樣に夫人が薰陶の至れるさまも推し測られ天晴れ人の母たるものの龜鑑として愧しからず夫人又交際の道に長けて慈善の趣意に稱へる催しとあれば履を倒にして之に赴き世に哀れのものを濟ふべき眞心を打鎔めらるゝいと日出度し左れば夫人は平常河村氏の許しを受けて曾つて日本風の髷に結はず手づから洗髮を束ねて髮結の代をばその儘に備へおき貧民院、孤兒院等へ義捐すといふ彼の驕奢の極むる夫人方には一度の髮結錢一圓以上を要する今の世に河村夫人の徳こそ有り難けれ

●河村伯爵母堂の淑德　麻布飯倉狸穴町四番地伯爵河村純義氏の母堂ゆか子の方には本年七十七の高齡に躋りたるを以て去頃親戚知人その他平生交際ある人々を請じて盛大なる賀筵を張り柳塢氏の席上畫、囲遊その外の落語等に餘興を添へたりといふ聞くゆか子の方は淑良の婦德を備へ家庭の監督いと物堅く居措進退禮に協はざれば已まず左れば冬の寒風肌刺す夜も曾て炬燵を用ひしとなきは更なり溽熱く燬の溶くる夏の日にも午睡の枕を假りしとなく眠氣の襲ひ來る毎には鎌を取りて跣足となり緣り蔭なす木の下に凉風に受けつゝ庭の雜草など摘み去るを例とすとぞ是れにても平生の擧動のいとめでたきを推し測るべく儉素に心を委ぬるの

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

狀も大槪は思ひ合さるべし斯る賢母の下に立ちて家庭はいかでその緒を亂るべき書生の輩が常に禮容あるはいふ迄もなく河村伯の今日あるも亦たゆか子の方の薫陶の大に與かれるものといふべきにや(以上二件、新朝野新聞に據る)

●孝女の賞與　群馬縣那波郡宮郷村大字宮子村の井田すみは父母に孝養の廉を以て同縣知事は去る十六日左の如く賞與せり

賦性温良克く父母に事へて孝順なり兄勝藏は放蕩にして屢々家出し父母の奉養を缺き家計亦日に貧苦を告ぐすみ軟弱の身を以て家事に力り自ら耒耜を乗り耕耘を力め己を薄し以て專ら父母の意を迎へ父母の嗜好する所の物は必ず之を供し承歡懈なく其孝養を竭す多年一日の如し洵に奇特とす仍て其賞として金二圓下賜す

●貞婦の賞與　富山縣礪波郡大字西中村萩原常次郎妻萩原フテは去る十四日同縣知事より左の如く賞與されたり

資性温和にして貞淑克く家業に努む夫常次郎は他家より入りし者にして嘗て同郡出町河合某の雇人となり明治十四年過て雇主の庭園樹上より墜落し痛く腰部を傷つけ遂に癈疾となり座作進退總て他人に頼らざれば用を便ずること能はずフテ大に之を哀惜し看護周到にして益々貞節を顯し年少なる二男岩藏の助力を得夙夜農事を勵し或は餘暇あるときは他家に雇はれ一家の生計を凌ぎ決して夫を煩はすことなし而して万事夫の意向に背かず其嗜好する所は常に己を節して供給する等十餘年間一日の如く其淑德其勉勵洵に奇特とす依て爲其賞金三圓下賜候事

●忠婢　高橋チヨ(七十六)は熊本縣天草郡湯嶋村高橋福松の伯母にして性質温順にして嘗て人と爭ひしとなし今を距る四十一年乃ち安政元年を以て天草を出で市內迎町の藥種店松岡敬次郎氏の(當主敬太郎氏の祖父)氏方に下女奉公に住込み爾來數十年の久しき實直に其勤めに服し主家を重んじ家風を守り炊事万端より他の婢僕の取締に至るまで一に主家の爲め畢生の力を盡し其傍ら當主敬太郎氏始め六人の小供を手しほにかけて育て上げ尚ほ目下老軀をも顧みず當主の長男を抱いて保育しつゝあり就中最も感ずべきは廿餘年前敬太郎氏の祖母中症に罹り身體不隨にて長らく打臥し居り家の者さへ手を控く位ひなるにチヨは嘗て之を苦とせず自ら奮つて看護の任に當り兩便の掃除より起臥に至るまで寢食を忘れて[illegible]に介抱せしのみならず去る十一年には敬太郎氏の伯母腸窒扶斯に罹り人々皆々之を厭ひて忌避するにも係らずチヨ獨り看護の任に當り一身を忘れて徹夜枕頭に侍し其の苦悶を慰さめ下器の掃灑に至るまで手一つにすると凡そ百餘日其の間毫も厭倦の色なく益々精神を盡して看護したる甲斐あり左しもの大病も程なく全癒に至りしかば一家の喜びは言ふも更らなり親戚近隣の者に至るまで其の懇篤に感服措かず實に此女こそ婢女の龜鑑と云ふべけれど同家の親戚及び近隣の有志等より狀を具し過般來旌表を出願中なりしが本縣廳に於ても詮議の上其の篤志なることを認め去る十四日同縣知事の名を以つて金二圓五十錢を賞與されたりと

(九州日々新聞に見ゆ)

◎片々

●女史殖民協會に加はる　東京市芝區内の或私立學校女教師山内美根子女史は今回大に感ずる處ありて殖民協會に入會し自ら率先者となりて日本の巾幗社會をして殖民思想を喚起し併て殖民事業を奬勵せんとの主意にて同會へ入會を申込みたるに同會規則には別に婦女の入會を禁ずるの明文なきのみならず大に女史の心を嘉みし幹事は直に其入會を許諾したりとの事なれば是より日本巾幗社會に殖民の聲を聞くに至るべきか婦人にして入會したるは同會組織以來未だ曾て有らざる處なりと

●鹿兒島市婦女子の感情　羅馬の季世に當りては人情總て殘酷に傾き演劇の如きも正銘の猛獸と人間と戰はしめ人間が負けるときは其場に於て嚙殺され生血淋漓片肉散亂たるを見て窈窕たる處女までも喝采するの有樣なりし由なるがそれに引換へ鹿兒島の婦女は甚だ温柔にして酷らしきとは一目も見るを得ずその一例を擧ぐれば近頃芝居にて內地にて興行する怪談皿屋敷を反譯して興行したる處井中水責の所に至りて見物の婦女子は一人〳〵逃出だし芝居には斯樣な酷いとを見には來らず今一度見せるゝときは忽ち目を廻はすべし抔と苦情を唱へたるよりその芝居にては遂にその狂言を取止めたり以て婦女子の感情を推すに足るべし

(鹿兒島新聞)

●女子部の養蠶　山梨縣尋常師範學校女子部の養蠶は去頃掃出たる由本年は其結果の良否を問はず經濟の爲め女生自ら飼育し折節八田同縣屬の監督を乞ふ事となしたる由

●婦人西藏探檢者　此に一女丈夫こそ現はれたり女丈夫はミセス、ビショップ氏年齡既に六十を越へたる英國の婦人なり聞れは單身漂然亞細亞地方探檢を思ひ立ち清國に入り其れより渺たる一女子の身を以て蠻烟瘴霧を冒し百難千苦を堪へ無事に未だ多く世に知られ居らざる西藏內地の探檢を遂げ終りて去月下旬を以て朝鮮に來り漢城に入り去る三日夜同地ユニオン俱樂部に於て歐米日清韓諸國紳士百餘名を集めて西藏紀行に關する數時間の面白き演說をなしたり尚ほ同地滯在中なるが二三日中更らに單身半島全部探檢の途に上ぼる筈なり婦人然かも六十餘の老寳婦人尚ほ此の空前の壯擧あり世間有鬚の男子爲めに慚汗を濶はさざるもの幾人ぞ(四月七日、朝鮮新報)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

大日本教育新聞

一ヶ月前金廿五錢
同郵税金拾貳錢五厘

但學事干係の方は定價三割引

◦教◦育◦界◦唯◦一◦の◦日◦刊◦新◦聞◦た◦る◦

◦本◦紙◦は◦學◦校◦、◦史◦談◦、◦教◦育◦學◦、◦實◦業◦教◦育◦談◦、◦内◦外◦◦事◦、◦教◦育◦時◦事、其◦他◦須◦要◦凡百の雜報を最先に、確實に、不斷に、時々に

而かも最廉價に讀得べきを特色とす

本紙には要◦路◦に◦當◦る◦某◦君◦の◦寄◦書◦を◦續◦載◦す◦、斯道從事者本紙を讀まば政◦府◦教◦育◦事◦業◦の◦方◦針◦を◦窺◦知◦す◦る◦の◦便◦益あり

◦本◦紙◦は◦「リ、プト」國◦遊◦記◦と◦稱◦す◦る◦解◦頤◦絶◦倒◦すべき稗史、伊◦國◦大◦偉◦人◦と題する悲◦慣◦驚◦歎すべき一◦豪◦傑◦の傳記とを交々連掲す

明治廿七年五月

東京神田 大日本教育新聞社

本校四月學年終結に付各級へ新入を許す規則所望の人は郵券二錢封入御申越あれ

明治廿七年四月

東京市麴町區下六番町六番地 明治女學校

看護婦生徒募集廣告

本年九月看護婦生徒募集候ニ付志望の者ハ來ル五月三十一日マテニ南豐島郡下澁谷村日本赤十字社病院へ申込ムヘシ

但年齡二十歲以上三十歲以下身幹四尺六寸以上ニシテ健康獨身ノ者ニ限ル猶規則並ニ申込手續ハ病院ニ就テ承合スヘシ

明治二十七年四月

日本赤十字社

四月三十日發

文學界

第十六號

- 口なしの花 …… 雪影
- 月 …… 藤村
- しらぬ …… 殘花
- 花十五句 …… 酒竹
- 草堂書影（其二）…… 禿木
- 人心の幻境を論す
- 花ごもり …… 一葉
- 流水日記 …… 孤蝶
- 音樂學校演奏會 …… 柳村
- 機聲燈影圖 …… 溪齋
- 時文 紋堂野史。美術學校展覽會。馬鹿趙高。新刊雜誌。壓影。

一冊六錢、市外六錢五厘

發賣所 女學雜誌社書店

四月十五日發

裏錦

第十八號

- 姑媳論 …… 北川貞行
- 花影錄（夫の運命）…… 機冉
- 婚嫁後の考蓑 …… 貞子
- 摸型人體（大尾）…… しら菊
- 歌論 …… 賀古保吾郎
- 學校の沿革 …… うづまさ稿
- 僞皇子（噴水庭園の場）…… 殘月庵
- 薛蘿衣（胡蝶、花賣翁）…… 殘夢
- 籠禽の夢 …… 山田郁子
- 家内の事務 …… 勝花樓主人譯
- 三百諸侯を訪む …… 機曲生

定價一冊六錢市外郵税一冊に付壹錢

發行所 東京神田區駿河臺北甲賀町十三番地 尚絅社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

小此木信一郎
布川静淵　同著

俳諧史傳　全

和裝美本
定價三十錢
郵税四錢
（五月一日發賣）

『俳諧史傳』出でたり、それ俳諧は我文學史上に一大特殊の光明を煥發す、一句十七有言、尺幅の裡無限の烟波渺々として際なし、俳諧は和歌に孕まれ、連歌に興り、松永貞德となりて、諧謔を擅にし、西山宗因となりて、奇巧好笑なる談林の花を咲かしめ、更に、詩聖松尾芭蕉の大手腕をかつて、閑寂沈痛なる正風俳諧の面目を構成す、數百年の間相傳へ、相襲ぎて庶民の美妙なる想念を滌蕩せしめ幽妙なる詩天地に逍遙す、其源流に遡り、其發達を叙し、其推移を訪ね、其變遷を記し、其特想を論じ、繙讀一番、炳焉として斯文學を腦底に活現せしめむことを期したるは我『俳諧史傳』なり、これを分ては、俳人個々の傳記となり、これを聯れは、整々一卷の史篇をなす、逸事あり、名句あり、一誦の下、恍々乎として、月明かに、花香しき境に遊ぶが如けむ、若しそれ、一筆輕々に下さず、一字苟もせず、而も文章平易簡明、叙記精確凱切なるや否やは世自ら公論あらむ、世の文士、一本を座右に備へざるべからず、今や印刷成る、我『俳諧史傳』は好知己を待つ者也、

發行所
東京神田區表神保町六番地
女學雜誌社書店

東京通信社
新聞切拔廣告

●切拔通信の要旨

●全國の新聞紙無慮百數十種日々掲載する所の事項千差萬別世人の必す知らさるへからさるもの擧て數ふへからす然れとも全國の新聞紙を一集して盡く之を各自に通讀せんこと人事の繁多なる今日に在て容易に爲し得へきにあらす是本社の嘗て新聞切拔通信の業を創始し以て江湖必須の需めに應せんと欲する所以なり

●切拔通信をなすへき概目は農工商業政治法律外交貿易政黨倶樂部教育宗教歴史詩歌運輸交通土木建築鑛業山林美術技藝各人身上に關する事等凡そ諸新聞紙上掲載の件は小説廣告に至るまて其委托に應し精閲遺漏なく勉めて配達を迅速にして以て愛讀者の便益を期す

東京市京橋區采女町廿壹番地

東京通信社附屬

新聞切拔通信部

明治廿七年五月

●切拔手數料大要

●一己の身上に止まる通信は壹ヶ月金貳拾錢とす

●一事業又は一事物に止まる通信は壹ヶ月金參拾錢より金五十錢まて

●一會社又は一團體の全般に關する通信は壹ヶ月金五十錢より金壹圓まて

●前記の事項と雖とも關係の範圍廣く日々記事の多數なるものは臨機の契約を爲すことあるへし

●月數に拘はらす件數にて委托せらるゝものは東京は拾件に付金貳拾錢地方は郵税を併せ金參拾五錢とす尤も細事項は總て號外として件數に算入せす

●社切拔通信規則書御入用の方は御通知次第郵送すへし

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

五月五日發兌

隔週評論發行

第貳拾四號目次

征韓論
半島に於ける日清韓
立正安國論を讀む
宗教上の東方問題（二）
懷往事談、新聞紙實歷
馬鹿趙高
法令全書索引目錄
現住安心論
基督教界の革新
お家騷動
薩長政府豈急かに倒れんや
遣門教
錦織剛清
本所の大火（江東居士）
社會學教授法（布川靜淵）
二百年后の吾人を評し併せて元良中島二博士が
强者の權利の批評を讀む（靜淵）
涙（韻文）雲峯子

從來月末發行として定期なかりし處、自今毎月五日發行と確定せり

發行所 女學雜誌社

本校四月學年終結に付各級へ新入を許す規則所望の人は郵劵二錢封入御申越われ
明治廿七年四月
東京市麴町區下六番町六番地
明治女學校

●生徒各級欠員募集
關西女子高等學校
大坂道修町二丁目
○申込四月十日迄○寄宿ヲ諾ス○內外教員十四名○學科ノ外活花茶式琴○裁縫ハ最モ速成ニ注意ス○四月十日迄ノ所遠國ヨリ申込非常ニ多ク其便利ヲ謀リ延期候志望者ハ至急申込アリタシ

女學雜誌定價表

冊數	定價前金	市外定價郵稅共
一冊	金六錢	金六錢五厘
十冊	金五十八錢	金六十三錢
廿六冊（半ヶ年分）	金一圓四十三錢	金一圓五十六錢
五十二冊（一ヶ年分）	金二圓六十錢	金二圓八十六錢

發賣所
東京市神田區表神保町六番地
女學雜誌社書店

明治廿六年四月廿五日內務省許可
明治廿七年五月四日印刷
明治廿七年五月五日發行

發行兼編輯者 東京市麴町區下六番町六番地 巖本善治
印刷者 牛込區市谷加賀町一丁目廿三番地 根岸高光
發行所 東京北豐島郡王子村下十條八百五十一番地 女學雜誌社
印刷所 牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工塲（電話十九番）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY